

# 糖尿病の栄養食事療法による体組成や筋力の変化に関する研究 ～栄養アセスメントに関する生体指標としてのVaspinの有用性に関する検討～

栄養学科 清水亮

## 研究目的

2型糖尿病患者(T2DM)個々に適切な栄養アセスメントを行うことで、食事制限で低下しがちなQOLの維持・向上に繋がられる可能性がある。そこで、Visceral adipose tissue - derived serpin (Vaspin)について、摂取エネルギー及び栄養量を示す生体指標となる可能性を検討した。

## 研究方法

T2DM 10名を対象に、BMIや体脂肪率、骨格筋率、血糖値、HbA1c、血清Vaspin濃度、摂取エネルギー及び栄養量について調査し、血清Vaspin濃度と各測定項目の相関性について統計学的な解析をした。

## 調査結果

測定の精度を確認するために、2社の測定キットを用いて血清Vaspin濃度を行ったところ、対象者の25%で約2倍又はそれ以上の差が確認された。

各測定項目と血清Vaspin濃度との関連性について、2社のkitで検討したが、いずれも有意な相関性を示すパラメータを確認することはできなかった。

## 今後の展望

本報告では、血清Vaspin濃度が、栄養アセスメントに関連した生体指標となる可能性は示されなかったが、その原因として、対象者数が少なかったことは否定できないため、今後、対象者数を増やすとともに、ELISA Kitの差の原因についても検討し、より適切なものを使用して研究を継続したいと考えている。